

## 第2節 「新たな日常」に向けたIT投資と課題

本節では、「新たな日常」を推進するために必要となる情報インフラ、IT投資の現状について確認したのち、それらが生産性に与える影響について検証する。これに関連し、人手不足を背景として増加していた省力化投資は、テレワークなど新しい働き方をバックアップすることからも注目されており、こうした取組状況なども確認する。最後に、各国との比較を行うことで、IT投資を推進するうえで我が国の課題となる点について検討する。

### 1 企業投資の現状と課題

はじめに、企業の設備投資状況について、IT投資に着目しながら現状を整理する。

#### ●民間のソフトウェアストックは着実に積みあがり

IT技術を駆使した「新たな日常」を推進するために必要となるIT投資を確認する前に、まずは我が国の設備投資の状況について概観する。

民間部門の設備投資の推移をみると、有形資産のうち、工場・ビルなどの「その他構築物」への新たな投資は、1995年から2010年頃にかけて減少した後、再び増加し、ストックベースでは95年とおおむね同水準となっている。一方、有形資産のうち「機械・設備」は、リーマンショックで一時大きく減少したが、その後は増加し、ストックベースでは2008年の水準まで回復している。「無形資産（知的財産物）」もリーマンショック後数年間は新規投資が控えられたが、その後は増加し、ストックベースも着実に積みあがっている。特に、知的財産物の内訳のうち、IT投資である「ソフトウェア（ストックベース）」は、2018年時点で1995年対比2倍程度になっている。なお、公的部門のソフトウェア（ストックベース）は、1995年対比6割弱の増加にとどまっている（第4-2-1図）。

#### ●従業員一人当たりソフトウェアストックは、一部を除きおおむね横ばい

ソフトウェアストックについて、業種別に確認すると、製造業では、「電子部品・デバイス」で顕著な伸びがみられたが、その他の業種では2000年代半ば以降おおむね横ばいとなっており、償却を上回る新規投資はみられない。一方、非製造業については、「運輸・郵便」「卸売・小売」で高い伸びが確認できる。

このように、非製造業を中心にソフトウェアストックは着実に積みあがっているが、従業員一人当たりでみると、「情報・通信機器」や「電子部品・デバイス」のソフトウェアストックは積み上がりが顕著である一方、その他の業種については、2000年代前半からおおむね横ばいとなっている（第4-2-2図）。

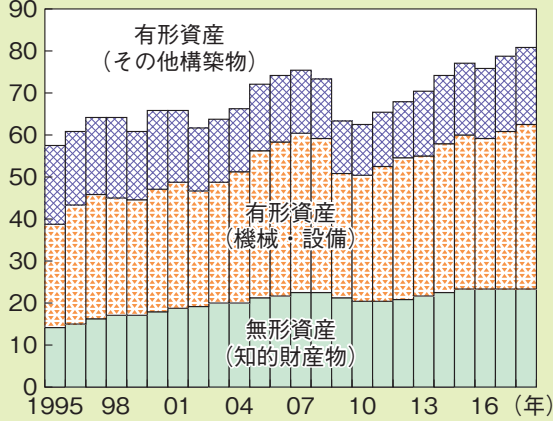
第4-2-1図 民間企業部門の投資推移

民間企業部門の投資は、無形資産や機械・設備を中心に増加。ソフトウェアストックも着実に積み上がり

(1) フロー

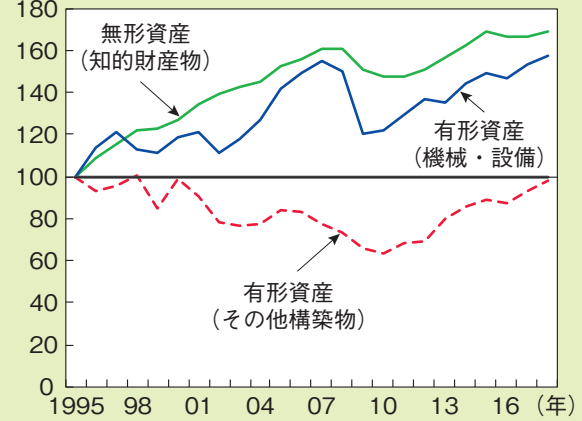
①金額

(兆円)



②1995年の投資額を100とした場合

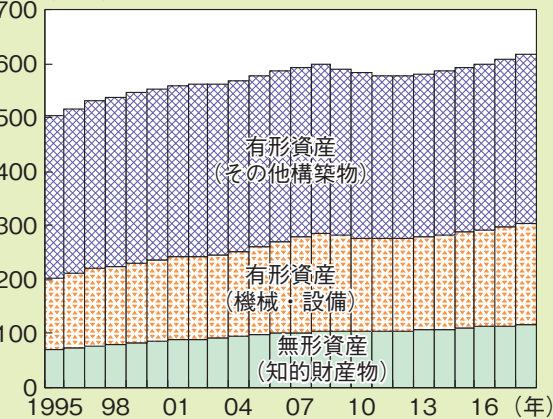
(1995年=100)



(2) ストック

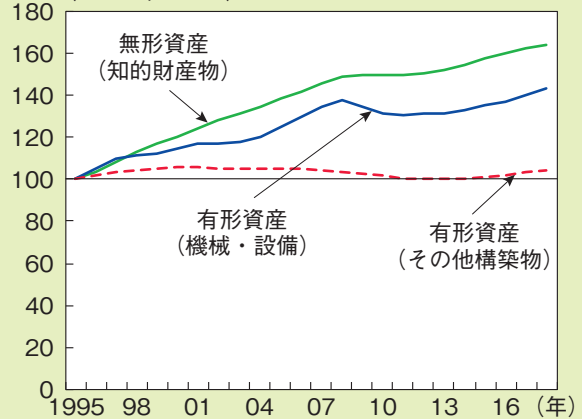
①金額

(兆円)



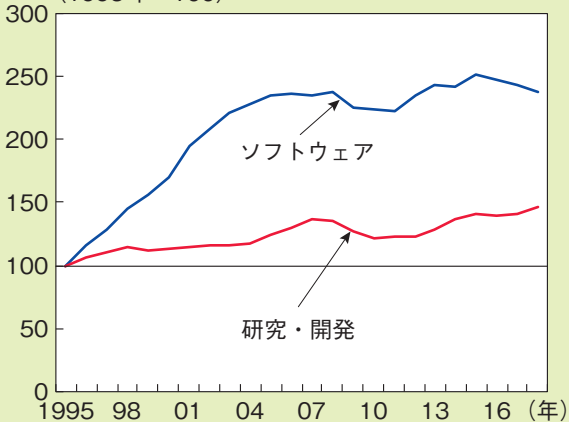
②1995年の資産額を100とした場合

(1995年=100)



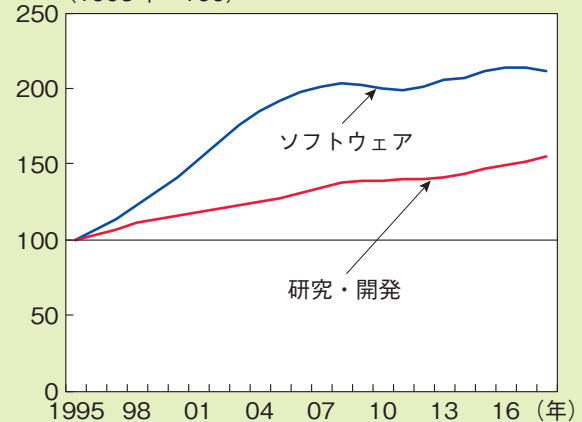
(3) 知的財産物の内訳 (フロー)

(1995年=100)



(4) 知的財産物の内訳 (ストック)

(1995年=100)



(備考) 1. 内閣府「国民経済計算年次推計」により作成。

2. 実質ベース。

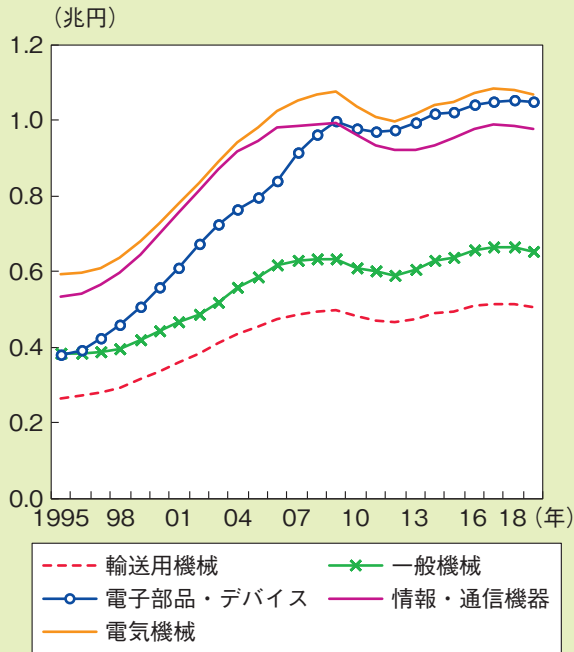
3. 有形資産は、固定資産のうち、「(住宅以外) その他の建物・構築物」・「機械・設備 (輸送用機械や情報通信機器など)」。無形資産は、同じく固定資産のうち、「知的財産生産物 (研究・開発、コンピュータソフトウェアなど)」。

第4-2-2図 主要業種別ソフトウェア投資の推移

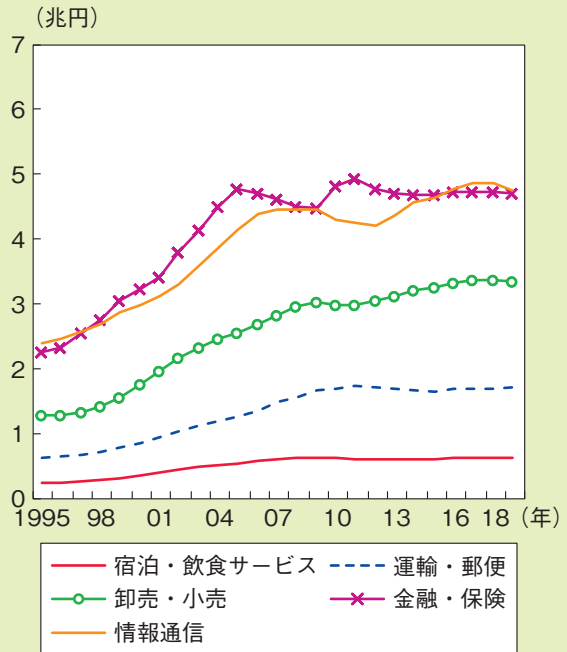
ソフトウェアストックは、電子部品・デバイスや非製造業で高い伸び。  
ただし、従業員一人当たりでは、一部業種を除きおむね横ばい

(1) ストック

①製造業

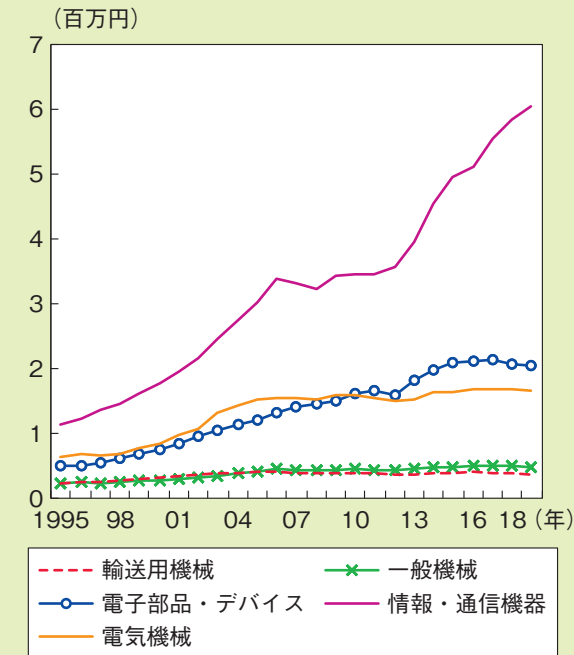


②非製造業

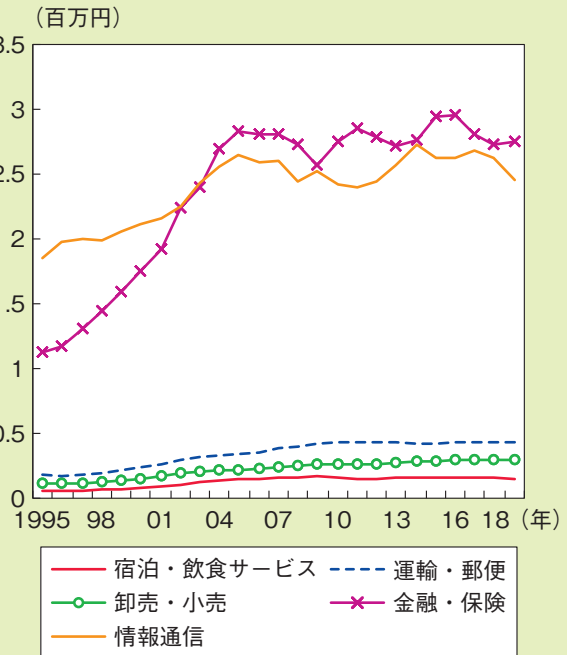


(2) 従業員一人当たりストック

①製造業



②非製造業



(備考) 1. 内閣府「国民経済計算年次推計」により作成。  
2. 実質ベース。

● IT投資は、フロー、ストック共に他の先進国に比べて見劣り

最後に、IT投資の状況について、主要先進国と比較する。ここでは、IT投資として、ハードウェア（IT端末等）とソフトウェアについて確認する。まず、IT投資のフローをみると、ハードウェア、ソフトウェアともにアメリカの投資が大幅に増加している。また、ドイツは、ハードウェア投資に比べ、ソフトウェア投資の伸びが高い。こうした下で、我が国のIT投資フローは、ハードウェア、ソフトウェアともに他の主要国に比べて伸び率が低めとなっている。この結果、ストックの伸び率についても、我が国はハードウェア、ソフトウェア共に他の主要先進国と比べて低位にとどまっている。先述した従業員一人当たりソフトウェアストックに積み上がりがみられない点も勘案すると、「新たな日常」の推進に向けて、IT投資は更に加速させる必要がある。また、ソフトウェアに研究開発投資を加えた無形固定資産投資（ストック）も、我が国は他の先進国に比べて見劣りしている（第4-2-3図）。

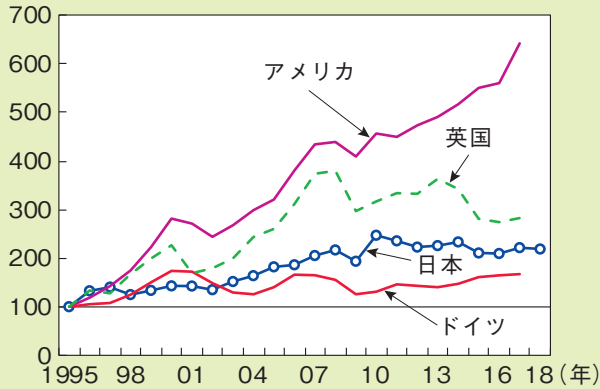
第4-2-3図 主要国のIT及び無形固定資産投資

IT投資及び無形固定資産投資は他の先進国対比見劣り

(1) 各国IT投資のフロー

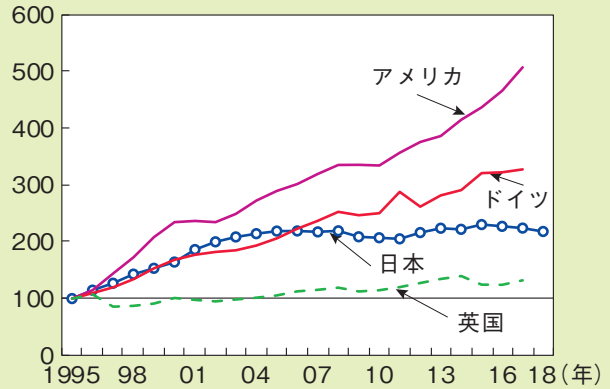
①ハードウェア

(1995年=100)



②ソフトウェア

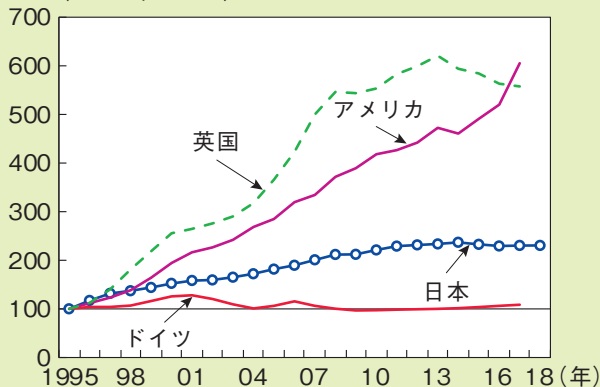
(1995年=100)



(2) 各国IT投資のストック

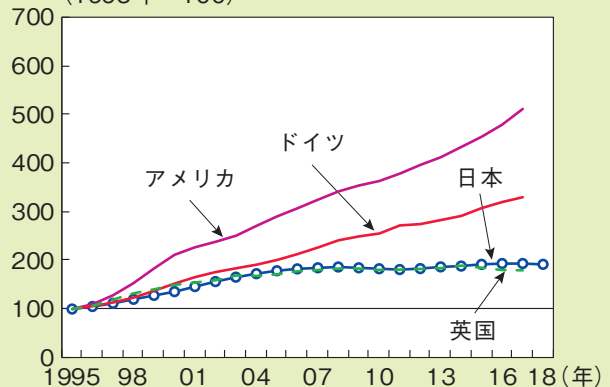
①ハードウェア

(1995年=100)



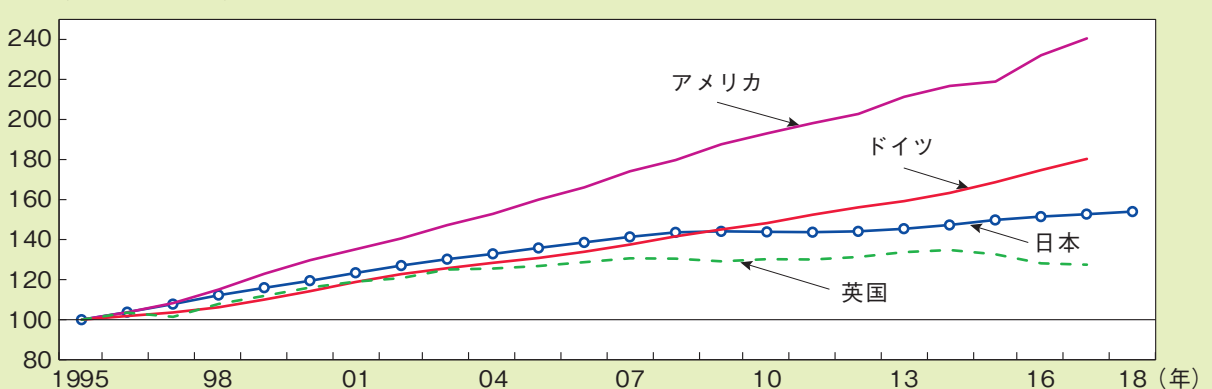
②ソフトウェア

(1995年=100)



(3) 各国の無形固定資産投資 (ストック)

(1995年=100)



(備考) 1. 内閣府「国民経済計算年次推計」、EU KLEMS database (2019) により作成。  
 2. EU KLEMS database (2019) には日本の計数は2015年までしか格納されていないため、日本のみ「国民経済計算年次推計」により作成。  
 3. 実質ベース。